

# 重点化プロ受注好調

## 18年9月期81件超見込む

ACKグループ

ACKグループの野崎秀則社長は30日、東京都内で開いた17年10月～18年3月期の決算説明会で、収益モデルを開拓する重点化プロジェクト8分野の受注動向を明らかにした。18年9月期の受注件数は前期(78件)から3件以上の上積みとなる81件超を見込んでいる。

重点化プロジェクトの通期受注予定件数(5月30日時点)は、▽インフラ保全・運営管理27件(17年9月期22件)▽防災19件(7件)▽再生可能エネルギー・スマートコミュニケーション22件(5件)▽交通(高度化・総合化)11件(12件)▽地域活性化11

件(11件)▽事業経営22件(10件)▽都市再生・民間開発11件(4件)▽海外新規開拓8件(7件)。インフラ保全・運営管理では、基礎自治体でインフラの効率的な維持管理業務の実施を目指す、設計段階から施工者が協力するECI方式の採用を広げる活動を展開する。鉄道施設を中心に民間インフラ保全業務の受注拡大を目指す。東京メトロの駅舎など建築施設の点検と補修・補強対策を検討し、実施に移す。防災では、UAV(無人航空機)を活用した道路斜面の落石抽出調査や河川堤防・護岸調査に取り組む。交通では、交通安全に向けた円形平面交差点「ラウンドアバウト」の提案活動を推進。地域活性化では、神奈川県開成町で地酒復活と発酵食品開発による新たなブランドづくりを推進。東京都江戸川区では施設情報を配信するま

ちあるきアプリ「えどくら」を導入し、地域活性化を支援する。海外は、フィリピンの南北通勤鉄道事業(マロロス・ツツパン)の施工監理業務やメガマニラ圏地下鉄事業(フェーズ1)の詳細設計調査業務などの大型案件の受注が好調で、今後もアジアを中心に鉄道関連業務の受注活動を強める。

17年10月～18年3月の連結業績は受注高456億1800万円(前年同期比37.1%増)、売上高244億7900万円(16.9%増)、営業利益12億7500万円(112.4%増)、経常利益11億1500万円(62.3%増)、純利益6億7500万円(29.2%増)。野崎社長は「中期経営計画で掲げる最終年度(20年9月期)の売上高目標500億円を今期中に達成する可能性が高い」との見通しを示した。